

地球の

なかまたち

ぼくらは

カピバラ三兄弟

photo by toyoosa



カピバラのおうちに三つ子がうまれました。

お父さんもお母さんもおよろこびです。

パロ ピロ ポロ と名前をつけました。

三匹とも とても元気にそだっています。

ちょっと元気すぎるかもしれません。



三つ子は日に日にいたずらになっていきます。

今日はお父さんとお母さんの毛であそんでいます。

とうとう毛をひっぱりはじめました。

「あっちであそびなさい！」

がまんできなくなったお父さんがさげびました。



「さあさあ、お父さんのおひるねのじゃまをしないように
むこうであそびましょうね」

お母さんは三つ子のおしりをそっとおしました。

パロとピロは、しゅしゅとお父さんのそばをはなれました。

パロはとてもふまんです。

もっとお父さんの毛であそんでいたいのです。



ところが、ポロはうごこうとしません。

どうしたのでしょうか。

ポロはお母さんのそばをはなれなくなかったのです。

じっとお母さんを見つめています。

お母さんはしかたなく子供たちの方へやってきました。

ほんとうはお母さんも休みたかったのです。



パロ、ピロ、ポロはお母さんの後について歩きます。

お母さんが水をのもうとすると、

それを見ていたパロとピロとポロもまねをします。

三匹にじゃまをされて、お母さんはお水をのむのも大変です。

「すこしどいてちょうだいね」

お母さんが言っても、パロもピロもポロも聞こえません。



小さなポロは、なかなかお水に近づけません。

パロとピロが行ってしまってから、お母さんはポロにいました。

「さあもうだれもいませんよ、のんでいらっしゃい」

ポロはお母さんを見上げました。

とっても大きく見えました。



ひとやすみしたお父さんが草をたべにきました。

パロもピロもポロもお父さんのまねをします。

三匹はおそろおそろ草のにおいをかぎました。

お父さんはおいしそうに草をたべています。

お母さんもやってきました。

やはり草をたべにきたのです。

きっとおいしいんだ。

たべてみよう！。

三匹はそう思いました。



三匹は並んで草をたべ始めました。

もぐもぐ、もぐもぐ

あれ？ 思ったほどおいしくありません。

ポロが聞きました。

「これ おいしいの？」

パロが答えます。

「おいしいんじゃないかなあ」

ピロがいました。

「まずいよ。たべられない」



「お母さんのおっぱいのほうがおいしいや」

三匹ともお母さんのところへもどりました。

パロとピロとポロは、ならんでなかよくおっぱいをのみました。

草よりずっとおいしく感じました。

こんなときは、とても静かでおとなしい三匹です。



おっばいをたくさんのだパロとピロとポロは、元気いっぱいです。

おなかもふくらんでいます。

こんどはなんのいたずら进行しようかと、あたりをみまわしました。

おもしろいことはないかな？



見つけた！

三匹はゆかいなあそびをおもいつきました。

「そ〜っと行くんだよ」 パロがいました。

「うん」 ピロが小さな声で答えます。

「どうして？」 とポロが大きな声で聞きました。

「しっ！ 大きな声だすなよ」 パロはちゅういしました。

ポロはきょとんとしています。



「わーい。お山だ、お山だー」

パ口とピ口とポ口はいっせいにのぼり始めました。

三匹がのぼったのは、お母さんの背中でした。

それをみたお父さんが大きな声でしかりました。

「お母さんはつかれているんだ。しずかにしなさい！」

お母さんはびっくりして目を開けました。

お父さんの声におどろいたのです。



お父さんにしかられても、

三匹はお母さんの背中であそんでいます。

お母さんはそんなことにはかまわずに、またねむり始めました。

三匹が背中にとび乗るくらい、

お母さんにとってはたいしたことではなかったのです。

お父さんはそれを見て、自分もまた目をとじました。



遊びつかれたパロとピロとポロは、

お父さんとお母さんの間にもぐりこみました。

大きなお父さんに守られて、

三匹は安心しておひるねをしました。

おわり